

釧路市教育委員会 平成30年第11回7月定例会会議録

- 1 日時：平成30年7月26日（木）13時30分から14時10分まで
- 2 会場：釧路市教育委員会室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
(教育委員)  
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員  
(事務局)  
高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、高松教育指導参事、  
江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、  
小野施設計画主幹、土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、  
仲谷学校教育課長、米田学校給食課長、上田北陽高等学校長、  
和田北陽高等学校事務長、澤口生涯学習課長、松本オープンカレッジ推進主幹、  
永井美術館長、工藤スポーツ課長、佐藤博物館長、  
古賀動物園長、牧野阿寒生涯学習課長、山田音別生涯学習課長
- 4 議事録署名人 山口委員、松尾委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件  
【公開案件】  
議案第39号 平成31年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について  
報告事項  
(1) 夏季スポーツ合宿来訪予定団体について  
(2) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】

議案第39号 平成31年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

(上田北陽高等学校長)

平成31年度から新たに採択する教科書についてご説明する。

まず、3学年の「コミュニケーション英語Ⅲ」に使用する桐原書店の「WORLD TREK English CommunicationⅢ」である。これは、2年前に桐原のWORLD TREK Englishを採択したため、その継続によって教科書が変わったものである。生徒が取り組み易い配慮があり、写真やイラスト等でステップを踏んで学習を進めていくことができる教科書となっている。

次に、2学年の「英語表現Ⅰ」に使用する東京書籍の「NEW FAVORITE English ExpressionⅠ」である。この教科書は、アクティブラーニングを想定した表現活動が展開でき、授業に生かすことができるとの判断で採択したものである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(種村委員)

昨年度までは、北陽高校の3年生は、英語の授業は選択制になっていたが、今年からは選択制ではなくなるということで、2年生の時に使っていた教科書の3年生用のものを平常時の授業で使うという認識で間違いないか。

(上田北陽高等学校長)

間違いない。英語の授業に関しては自分が着任してから、いろいろな形で改善してほしいということをお願いしており、そのような中での教科書採択となる。英語に関しては、更なる授業改善の提案をすることを予定している。

(種村委員)

大学入試を考えたときに、高校3年生がメインになるので、必修化は必要だと思う。

(上田北陽高等学校長)

英語については4観点の重視ということで、「読む、聞く、話す、書く」というのが網羅されて使える英語でなければならないので、まだまだ改善していきたい。

また、本校にはALTが常駐している。ALTの活用については今までの状況を聞くと物足りなさを感じているので、授業の中で積極的に活用してほしいと先生方にはお願いしている。

(種村委員)

以前授業を見させてもらった時に2年生の授業では先生が最初から最後までほとんど英語で教えていた。1年生は若干日本語も交じていたが、実際どのくらいのクラスで英語で授業を実施しているのか。

(上田北陽高等学校長)

オールイングリッシュで授業をするということは、文科省でも道教委でもやっているところだが、本校の英語教員でもほとんどの人間が実施できる能力を持っている。その中で実際に全てオールイングリッシュでやれている授業ばかりかと言われるとそうではない。ただ、英語の授業については本当に改善してもらいたい部分を感じているので、オールイングリッシュ等の授業方法も検討していきたいと思っている。

#### 【公開案件】報告事項

##### (1) 夏季スポーツ合宿来訪予定団体について

(工藤スポーツ課長)

夏季におけるスポーツ合宿来訪予定団体の状況について、ご報告する。

昨年の来訪団体数は52団体となっており、人数では過去最高の1,501人が来訪したところであり、地域の特徴である冷涼の気候と充実した施設が一定の評価を受けているものと感じている。今年の来訪団体では、日本実業団陸上競技連合や日本大学サッカー部など、昨年初めて来訪したチームが、昨年に引き続き、合宿を実施する予定であるほか、初合宿では中国電力陸上競技部など5団体が来訪し、合宿を行う予定である。

また、今年で9年連続となる亜細亜大学硬式野球部の合宿については、8月7日から19日までの日程で実施されることとなっており、8月10日(金)からは「第2回 タンチョウリーグ in くしろ」として、日本を代表する社会人チームのトヨタ自動車、HONDA、JR東日本のほかプロ野球チームの福岡ソフトバンクホークス3軍や東京読売ジャイアンツ3軍が参加するオープン戦が、昨年より規模を大きくして開催される予定であり、数年後のスター選手が数多く出場する、楽しみの多い試合を観戦できる貴重な機会となっている。

主な試合としては、8月15日(水)10時30分からはソフトバンクホークス対ジャイアンツの試合が組まれており、全試合入場料無料となっているので、多くの市民に観戦してもらいたい。

来訪する団体については、広く市民の皆様知ってもらえるよう、市のホームページで紹介するとともに、どの団体にとっても釧路での合宿が実り多いものとなるよう、関係団体と連携を図り、温かいおもてなしの心でお迎えし、支援に努めてまいりたいと考えているところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

日本大学のサッカーの練習場所で阿寒を使うということで、阿寒で数年前から芝生のグラウンドを整備しているとのことだが、芝生の生育状況はどうなっているのか。

(工藤スポーツ課長)

サッカー協会から寄与をいただき、芝の種子を平成26年度にまいて、平成27年度から使用している。去年はあまりコンディションが良くなく、スライディングをすると擦り傷ができる場所もあったということで、今年は早めに整備を行ったのでコンディションは良好である。

(松尾委員)

亜細亜大学が来たときには少年野球の子どもたちと一緒に野球教室などを行っていたが、他の競技では地元の子供たちと一緒にそのような事を行ったり、試合を見せる等はあるのか。

(工藤スポーツ課長)

亜細亜大学も野球教室を開いているし、陸上では小森コーポレーションの合宿に来た選手が、子どもたちに対して陸上教室を開いている。昨年は日大サッカー部が鉏路の子どもたちを対象に河畔サッカー場を使ってサッカー教室を実施した。場合によってはスピードスケートについても開催している年もある。時間と場所が合えばそのような教室を開催していただけるようお願いしている。しかし、同じ競技を複数やっても仕方がないので、1競技1団体をお願いしている。

(山口委員)

昨日の新聞に載っていた日大のサッカー部も、広里運動公園でも教室を開くと書いていたがそこにもサッカー場があるのか。

(工藤スポーツ課長)

去年は河畔だったが、広里の方が人も集まりやすいこともあり、今年は広里のサッカー場でやってもらえるということで場所を確保した。

(岡部教育長)

今いろいろと誘致に動いている中で、新規に鉏路を考えたいと言っている団体はあるのか。来訪のほとんどがウィンタースポーツ中心なので、施設があるからという理由が大きいと思う。涼しさを求めて鉏路に来てくれるという視点の団体はあるのか。

(工藤スポーツ課長)

野球では亜細亜大学のつながりで社会人チームが増えてきている。また、もっとキャパがあれば来たいというところもあるが、今の鉏路と帯広にある球場ということを考えると、要望がありながらも、なかなか実現することができない。一方、陸上はロードを使って走ることができることから、これ以上増えても受け入れることが可能であるので、そこを中心に動いている。しかし、実業団陸上チーム、大学の駅伝部が合宿したいという声があがってきたときに、宿が一番問題となっている。繁忙期に重なっているため、なかなか取りづらいということで、1年前に宿を押さえて来年行くという実業団チームは何チームか情報を得ている。

## 【公開案件】 報告事項

### (2) 学校の現状について

(高松教育指導参事)

まず1点目にくしろの子ども大集合の開催についてお話する。

例年開催している「くしろの子ども大集合」について、今年度は9月1日(土)、市民文化会館にて開催する。内容としては、今年度も鈿路市児童生徒健全育成標語の入選者表彰式に続き、児童会活動・生徒会活動など、特色ある取り組みについての学校紹介が行われる。

メインとなる討論会では、「今、わたしたちが考えること」と題して、携帯・スマホやネットトラブルなどを中心に、いじめの問題や人間関係づくりについて討論する予定であり、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいくための切り口にしていきたいと考えている。当日は、児童生徒、教職員はもとより、市P連や連合町内会と連携を図りながら、より多くの保護者・地域住民の方々にも参加していただけるよう、働きかける。当日はより多くの方々に、さまざまなお立場から発言してもらいたいと考えているので、教育委員の皆様におかれましても、ぜひ、積極的なご発言をよろしくお願いいたします。

2点目に夏休み中の生徒指導と教職員の服務規律の徹底についてお話する。

春採中学校を除いた小中学校ともに7月24日(火)に第1学期の終業式を迎え、夏休みに入り2日ほど経過した。「夏を楽しく」や通知文に基づき、事故・非行のない夏休みとなるよう児童生徒への指導を先日の校長会議でお願いしたところである。

加えて、今年度も引き続き行われた道全体で進める飲酒運転根絶に向けた取り組みのほか、速度超過等の交通違反の防止について、特に、夏休み中の遠出の際には、十分に気を付けるよう、夏休み前に機会を捉え、指導の徹底を再度、お願いしたところである。

3点目は夏休み中の補足的な学習サポートについてお話しする。

夏休み中の補足的な学習サポートについては、小学校では3日、中学校では2～13日程度と実施日数に違いがあるものの、すべての小・中学校で取り組む。

各学校では、保護者を含めて個別に参加を促すなど、真に学力向上が必要な児童生徒の参加について工夫しながら取り組んでいるところである。

ここ数年来、教育大学の前期試験期間と補足的な学習サポートの実施日が重なり、学生ボランティアの確保が難しい状況だったが、今年度は、道教委の学生ボランティア派遣事業と併せて、小学校11校、中学校3校で学生ボランティアを活用する予定となっている。

4点目は夏休み中の研修講座についてお話する。

夏休み等の長期休業中を活用した研修講座の開催もすっかり定着し、この夏休みは体力向上といじめ・不登校に関する講座を開催する。

中でも、いじめ・不登校への対応では、いじめ対策推進法によるいじめの定義の変化やいじめの積極的認知、つまり、従前は学校がその内容を聞き取ったうえでいじめと判断していた認知件数を、アンケート調査等で児童生徒が「嫌な思いをした」という訴えをもって認知件数としなければならない、早期に、かつ、丁寧に対応する必要性について、受講する先生方の理解を深めたいと考えている。

また、いじめの積極的認知により、学級担任が認知するケースが多くなることが想定されるが、担任だけの個の対応ではなく、ケース検討を加えながら、組織的に対応する必要性へ

の理解を深めなければと考えている。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

(小出委員)

夏季休業中の学習サポートの資料で、各校の参加を促す工夫に対する記述を見たときに、どこの学校もだいたい学力向上の必要な子には個別に声掛けする努力をしていると記載している学校が多いが、空欄になっている学校にはしていないということだろうか。

(高松教育指導参事)

やり始めのうちから真に学力向上の必要な子どもには、特に意識的に声をかけるということで、調査上の記載には空欄であっても声掛けはしていると考えている。

(山口委員)

今の質問に関連して、去年景雲中学校に訪問したとき、非常にきめ細かく子どもたちのニーズに対応した補充学習をしていたので、空欄になっているからといって何もしていないということではないと受け止めていた。

(高松教育指導参事)

景雲中学校は通級指導も行っており、通級の子どもたちにも講座を設定して行っているのので、そういう意味での学力向上が必要な生徒については必然的に参加できるような仕組みが作られていると思う。

(山口委員)

学校には負担になるかもしれないが、今年も教育委員が愛国小学校と美原中学校に行きたいとリクエストしたら、ぜひ来てくださいという返事をいただいたので、見学させてもらいたいと考えている。

別件で、夏季休業中の研究センターの研究講座の説明があり、自分も10年前まで学校現場にいた関係で、長期休業中の先生方の動向については、なかなか研修講座を持ちにくいという実態があったが、長期休業中に講座があると先生方も参加しやすいし、その様な時期に講座の設定ができるようになったのは大きな前進だと思う。しかし、今後長期休業中に各学校で先生全体の会議を持ちたいとか、学校独自に使いたい日、この日は校外研修の日、というようになると、学校で開催する会議と研修講座の日程が重なってしまい、出られる先生と出られない先生が出てくるようになると思うので、今後校長会との連携を密にして調整することが必要になると個人的に思うがどのように考えているか。

(土江田総括指導主事)

各学校の校内研修に関しては、できるだけ終業式が終わった直後の7月末に設定してくださいとお願いし、ほとんどの学校がその時期に行っている。それに関わって研修講座に関しては8月の第1週あたりを設定している。今後とも各学校の校内研修等の重ならないように、設定したいと考えている。

(山口委員)

一昨日幣舞中学校で教育懇談会があったが、地区連の会長さんが学校便りを地域に配布していただき、学校の動きが見えて助かっているということで評価する発言があった。その説明を聞いて感じたのは、学校側の意図としては、「学校・家庭・地域の連携協力」というキーワードが重要になっているが、学校の動きを地域住民に知ってもらう、そのために連町の回覧板や町内の回覧板を使って啓発活動を行うということだと思うが、釧路市内の町内会の加入率が50パーセントを切っていることを考えれば、50パーセント以上の地域の住民は、この方法では学校の動きを理解できないという問題点が出てくると思う。残りの50パーセントに対して、どのようにアプローチできるかを考えたときに、例えば地域住民が多く集まるお店や量販店、コンビニ等、また学校独自の掲示板などを利用して、町内会に入っていない人も学校便りを読む気になったら読めるという場の提供は一步進んでできないのかと思う。今すぐ実行するのは難しいが、50パーセント以上が町内会に入っていないという実態を考えると、町内会に加入促進を積極的にやるのと併せて、そこのネットにかからない人にも知ってもらうための術を工夫することが必要だと思う。

(高松教育指導参事)

学校によっては、校門前の学校の持つ掲示板に学校便りを貼り出す学校もあるし、共栄小学校は以前、スーパーや郵便局に理解を求めて、学校便りを置いてもらっていたと聞いている。地域的には、音別、阿寒湖については新聞店が好意で新聞に挟んでもらうなど、いろいろな手立てがあると思うので、あらゆる方法で学校便りを目にする機会を校長会でも、情報を共有しながら作っていきたいと思う。